

注3

大学番号：私066

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

認可

和洋女子大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人和洋学園

平成30年5月1日現在

目次

看護学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 留意事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 和洋学園

(2) 大学名

和洋女子大学

(3) 大学の位置

〒272-0827

千葉県市川市国府台2-1-18

(〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナガサカ ケンジロウ) 長坂 健二郎 (平成27年5月)		
学長	(キシダ コウジ) 岸田 宏司 (平成24年4月)		
学部長	(トネ ヨウコ) 刀根 洋子 (平成30年4月)		
学科長等	(ナカザワ アケミ) 中澤 明美 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	4年	100人	— 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100 () []	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	1.14倍	
志願者数	335 () []	— () []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
受験者数	314 () []	— () []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
合格者数	251 () []	— () []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	114 () []	— () []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	1.14											

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	114 [-] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			114 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	114 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
合 計	114 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{114} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通総合科目	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前・後	2								2
	パソコンの基礎と応用	1前	2			12	10	7	6		2
	哲学への誘い	1前・後	2								1
	日本の文学	1前・後	2								2
	外国の文学	1後	2								1
	ジェンダーと文学	1前	2								1
	表現と創作	1前・後	2								2
	こんにちの文化	1前	2								1
	歴史学	1前	2								1
	日本の美術	1前	2								1
	西洋の美術	1後	2								1
	音楽の歴史	1後	2								1
	音楽の楽しみ	1前	2								1
	手書き文字の世界	1前・後	2								2
	漢字・かな文字の変遷	1前・後	2								2
	日本国憲法	1前・後	2								1
	憲法と人権	1前・後	2								1
	国際関係入門	1前・後	2								1
	経済の仕組み	1前・後	2								2
	社会の仕組み	1前・後	2								2
	20世紀の日本	1前・後	2								1
	家族と社会	1前・後	2								1
	家族と福祉	1前・後	2								1
	服装の科学	1前・後	2								2
	ファッションの文化	1前・後	2								2
	色彩の科学	1前	2								1
	健康と食生活	1前・後	2								2
	住まいとデザイン	1前・後	2								1
	社会福祉の展望	1後	2								1
	加齢と高齢者の科学	1前	2								1
	こどもと育児	1前・後	2								1
	化学	1前・後	2								1
	数理と発想	1後	2								1
	看護の知識	1前・後	2				5				2
	社会貢献と実践	1前	2								2
	心理の科学	1前	2								2
	家族とジェンダー	1前・後	2								1
	人間の発達	1前・後	2								2
	生命の科学	1前・後	2								1
	現代の教育	1前・後	2								3
	遺跡に学ぶ	1後	2								1
	生命と医療の倫理	1後	2								1
	女性と美容	1後	2								1
	健康の科学	1前・後	2								3
	スポーツ実習	1前・後	1								2
フィットネス実習	1後	1								1	
海外語学研修	1前・後	2								3	
海外文化研修	1前・後	2								1	
英語a-I	1前	1								3	
英語a-II	1後	1								3	
英語b-I	1前	1								3	
英語b-II	1後	1								3	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通総合科目	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前・後	2								2	
	パソコンの基礎と応用	1前	2					11	9	6	6	2
	哲学への誘い	1前・後	2								1	
	日本の文学	1後	2								2	
	外国の文学	1後	2								1	
	ジェンダーと文学	1前	2								1	
	表現と創作	1前・後	2								2	
	こんにちの文化	1前	2								1	
	歴史学	1前	2								1	
	日本の美術	1前	2								1	
	西洋の美術	1後	2								1	
	音楽の歴史	1後	2								1	
	音楽の楽しみ	1前	2								1	
	手書き文字の世界	1前・後	2								2	
	漢字・かな文字の変遷	1前・後	2								2	
	日本国憲法	1前・後	2								1	
	憲法と人権	1前・後	2								1	
	国際関係入門	1前・後	2								1	
	経済の仕組み	1前・後	2								2	
	社会の仕組み	1前・後	2								1	
	20世紀の日本	1後	2								1	
	家族と社会	1後	2								1	
	家族と福祉	1前・後	2								1	
	服装の科学	1前・後	2								2	
	ファッションの文化	1前・後	2								2	
	色彩の科学	1前	2								1	
	健康と食生活	1前・後	2								2	
	住まいとデザイン	1後	2								1	
	社会福祉の展望	1後	2								1	
	加齢と高齢者の科学	1前	2								1	
	こどもと育児	1前・後	2								1	
	化学	1前・後	2								1	
	数理と発想	1前	2								1	
	看護の知識	1前・後	2						4		2	
	社会貢献と実践	1前	2								2	
	心理の科学	1前	2								2	
	家族とジェンダー	1前・後	2								1	
	人間の発達	1前・後	2								2	
	生命の科学	1前・後	2								1	
	現代の教育	1前・後	2								3	
	遺跡に学ぶ	1後	2								0	
	生命と医療の倫理	1後	2								1	
	女性と美容	1後	2								1	
	健康の科学	1前・後	2								3	
	スポーツ実習	1前・後	1								3	
フィットネス実習	1後	1								2		
海外語学研修	1前・後	2								3		
海外文化研修	1前・後	2								1		
英語a-I	1前	1								3		
英語a-II	1後	1								3		
英語b-I	1前	1								3		
英語b-II	1後	1								3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	看護学セミナー	1前	1			11	10	6	6		
	礼法	1前	1								2
	ホスピタリティ	1後	1								1
	アサーティブコミュニケーション	2前	1								1
	解剖生理学 I	1前	2			1					1
	解剖生理学 II	1後	2			1					1
	解剖生理学実験	2前	1			1					
	生化学	1前	1								1
	栄養学	2前	1								1
	薬理学	2後	1								1
	病態と治療 I (内科系)	1後	2								1
	病態と治療 II (外科系)	2前	2								1
	病態と治療 III (産婦人科・小児疾患)	2前	2								1
	病態と治療 IV (精神・神経疾患)	2前	2								1
	病理学総論	1後	1								1
	公衆衛生学	2前	1			1		1			2
	社会保障論	3前	1								1
	看護と関係法規	3前	2								1
	疫学	3前	2								1
	保健医療福祉行政論	3前	3								1
	保健医療情報学	1後		2				1			
	保健統計学	3前	2								1
	チーム医療	3前	1								3
	看護理論	2後	1			1					
	看護学概論	1前	2			1					
	看護基本技術 I (生活の援助技術)	1通	2				2				
	看護基本技術 II (フィジカルアセスメント)	2通	2				3				
	看護基本技術 III (臨床看護技術)	2前	2				1				
	看護基本技術 IV (看護の計画と展開)	2後	1			1	3		1		
	基礎看護学実習 I	1後	1			1	6	2	6	5	
	基礎看護学実習 II	2後	2			5	5	2	2	4	
	成人看護学概論	2前	1			2					
	成人看護援助論 I	2前	2			1		2	1		
	成人看護援助論 II	2後	2			1	1	1	1		
	成人看護援助論 III	3前	1			1	1	1			
	成人看護学実習 I (急性期・回復期)	3後	3			2	1	2	2	5	
	成人看護学実習 II (慢性期)	3後	3			2	1	2	3	3	
	老年看護学概論	1後	1			1					
	老年看護援助論 I	2後	2			1	1		1		
	老年看護援助論 II	3前	1			1	1		1		
	老年看護学実習 I (施設)	2前	1			1	1	1	4	3	
	老年看護学実習 II (病院)	3後	2			1	1		3	1	
	老年看護学実習 III (包括支援センター)	3後	1			2	1	1	2	1	
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論 I	2後	2			1	1	1			
	小児看護援助論 II	3前	1			1	1	1			
	小児看護学実習	3後	2			1	1	1		1	
	母性看護学概論	2前	1			2					
	母性看護援助論 I	2後	2			1	1				
	母性看護援助論 II	3前	1			1	1				
母性看護学実習	3後	2			2	1		1	1		
精神看護学概論	2前	1			1	1					
精神看護援助論 I	2後	2			1	1	1				
精神看護援助論 II	3前	1			1	1	1				
精神看護学実習	3後	2			1	1	1		1		
在宅看護学概論	2前	1			1						
在宅看護援助論 I	2後	2			1		1				
在宅看護援助論 II	3前	1			1		1				
看護治療技術演習	3前	1			1					5	
在宅看護学実習	4前	2			1		1	1	1		
公衆衛生看護学概論	1後	2			1						
公衆衛生看護展開論 I (地域)	2後		2		1	2				1	
公衆衛生看護展開論 II (学校保健)	3前		2		1	2					
公衆衛生看護展開論 III (産業保健)	2後		2		1	2					
公衆衛生看護展開論 IV (地域診断)	3前		1		1	2	1				
公衆衛生看護管理論	3前		1		1						
公衆衛生看護学実習 I (市町村)	4前		2		1	2					
公衆衛生看護学実習 II (保健所)	4前		1		1	2					
公衆衛生看護学実習 III (産業・学校保健)	4前		2		1	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	看護学セミナー	1前	1			10	9	5	6		
	礼法	1前	1								2
	ホスピタリティ	1後	1								1
	アサーティブコミュニケーション	2前	1								1
	解剖生理学 I	1前	2			1					1
	解剖生理学 II	1後	2			1					1
	解剖生理学実験	2前	1			1					
	生化学	1前	1								1
	栄養学	2前	1								1
	薬理学	2後	1								1
	病態と治療 I (内科系)	1後	2								1
	病態と治療 II (外科系)	2前	2								1
	病態と治療 III (産婦人科・小児疾患)	2前	2								1
	病態と治療 IV (精神・神経疾患)	2前	2								1
	病理学総論	1後	1								1
	公衆衛生学	2前	1			1		1			2
	社会保障論	3前	1								1
	看護と関係法規	3前	2								1
	疫学	3前	2								1
	保健医療福祉行政論	3前	3								1
	保健医療情報学	1後		2				1			
	保健統計学	3前	2								1
	チーム医療	3前	1								3
	看護理論	2後	1								
	看護学概論	1前	2			1					
	看護基本技術 I (生活の援助技術)	1通	2					2			
	看護基本技術 II (フィジカルアセスメント)	2通	2					3			
	看護基本技術 III (臨床看護技術)	2前	2					1			
	看護基本技術 IV (看護の計画と展開)	2後	1				1	3		1	
	基礎看護学実習 I	1後	1				1	6	2	6	5
	基礎看護学実習 II	2後	2				5	4	2	2	4
	成人看護学概論	2前	1					2			
	成人看護援助論 I	2前	2				1		2	1	
	成人看護援助論 II	2後	2				1	1	1	1	
	成人看護援助論 III	3前	1					1	1	1	
	成人看護学実習 I (急性期・回復期)	3後	3				2	1	2	2	5
	成人看護学実習 II (慢性期)	3後	3				2	1	2	3	3
	老年看護学概論	1後	1				1				
	老年看護援助論 I	2後	2				1	1		1	
	老年看護援助論 II	3前	1				1	1		1	
	老年看護学実習 I (施設)	2前	1				1	1	1	4	3
	老年看護学実習 II (病院)	3後	2				1	1		3	1
	老年看護学実習 III (包括支援センター)	3後	1				2	1	1	2	1
	小児看護学概論	2前	1				1				
	小児看護援助論 I	2後	2				1	1	1		
	小児看護援助論 II	3前	1				1	1	1		
	小児看護学実習	3後	2				1	1	1		1
	母性看護学概論	2前	1				2				
	母性看護援助論 I	2後	2				1	1			
	母性看護援助論 II	3前	1				1	1			
母性看護学実習	3後	2				2	1		1	1	
精神看護学概論	2前	1					0	1			
精神看護援助論 I	2後	2					0	1	0		
精神看護援助論 II	3前	1					0	1	0		
精神看護学実習	3後	2					0	1	0	1	
在宅看護学概論	2前	1				1					
在宅看護援助論 I	2後	2				1		1			
在宅看護援助論 II	3前	1				1		1			
看護治療技術演習	3前	1				1				5	
在宅看護学実習	4前	2				1		1	1	1	
公衆衛生看護学概論	1後	2				1					
公衆衛生看護展開論 I (地域)	2後		2			1	1			1	
公衆衛生看護展開論 II (学校保健)	3前		2			1	1				
公衆衛生看護展開論 III (産業保健)	2後		2			1	1				
公衆衛生看護展開論 IV (地域診断)	3前		1			1	1	1			
公衆衛生看護管理論	3前		1			1					
公衆衛生看護学実習 I (市町村)	4前		2			1	1				
公衆衛生看護学実習 II (保健所)	4前		1			1	1				
公衆衛生看護学実習 III (産業・学校保健)	4前		2			1	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	災害と地域看護活動	4後		1							2
	看護倫理	3前	1			1					
	ヘルスプロモーション	1後	1			1					1
	感染看護学	2前	1								2
	国際理解と看護	4後		1							3
	看護教育学	4後		1		1					
	看護マネジメント	4後		1		1		1			
	産業看護学	2前	1								1
	がん看護学	2後	1								1
	看護研究Ⅰ	2前	1			3					
	看護研究Ⅱ	3通	1			11	10	6	4		
	看護研究Ⅲ	4通	2			10	10	6	4		
	看護の統合実践実習	4前	2			11	10	6	6	7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	災害と地域看護活動	4後		1							2
	看護倫理	3前	1			1					
	ヘルスプロモーション	1後	1			1					1
	感染看護学	2前	1								2
	国際理解と看護	4後		1							
	看護教育学	4後		1		1					
	看護マネジメント	4後		1		1		1			
	産業看護学	2前	1								1
	がん看護学	2後	1								1
	看護研究Ⅰ	2前	1					3			
	看護研究Ⅱ	3通	1					10	9	5	4
	看護研究Ⅲ	4通	2					10	9	5	4
	看護の統合実践実習	4前	2					10	9	5	6

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・専任教員の就任辞退により、「基礎ゼミ」の専任教員配置を「教授12」から「教授11」「准教授10」から「准教授9」「講師7」から「講師6」に変更。
- ・兼任教員の育児休業取得により、「日本の文学」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・兼任教員の就任1年延期により、「手書き文字の世界」の兼任教員配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・兼任教員の就任1年延期により、「漢字・かな文字の変遷」の兼任教員配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・兼任教員の役職者コマ数減により、「社会の仕組み」を兼任教員配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・兼任教員の役職者コマ数減により、「20世紀の日本」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・兼任教員の役職者コマ数減により、「家族と社会」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・申請時の誤表記により、「住まいとデザイン」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・兼任教員の開講クラス調整により、「数理と発想」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「看護の知識」の「教授5」から「教授4」に変更。
- ・兼任教員の就任辞退により、「遺跡に学ぶ」の兼任教員配置を「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・兼任教員の担当科目調整により、「スポーツ実習」の兼任教員配置を「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・兼任教員の担当科目調整により、「フィットネス実習」を兼任教員配置を「兼任1」から「兼任1」に変更。
- ・申請時の誤表記により、「海外文化研修」の配当年次を「1前・後」から「1通年集中」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「看護学セミナー」の専任教員配置を「教授11」から「教授10」「講師1」から「講師0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「准教授5」から「准教授4」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「精神看護学概論」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学実習」の専任教員配置を「教授1」から「教授0」「講師1」から「講師0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「公衆衛生看護展開論Ⅰ（地域）」「公衆衛生看護展開論Ⅱ（学校保健）」「公衆衛生看護展開論Ⅳ（地域診断）」「公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）」「公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）」「公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）」の専任教員配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「看護研究Ⅱ」「看護の統合実践実習」の専任教員配置を「教授11」から「教授10」「准教授10」から「准教授9」「講師6」から「講師5」に変更。
- ・専任教員の就任辞退により、「看護研究Ⅲ」の専任教員配置を「准教授10」から「准教授9」「講師6」から「講師5」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	60 科目	科目	135 科目	75 科目 []	60 科目 []	科目 []	134 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	遺跡に学ぶ	2	1	一般	選択	科目担当教員退職のため平成31年度開講できるように、今年度中に人事を進める。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

科目担当教員の退職により「遺跡」を教授できないため、平成31年度科目名を変更し開講する。学生には、教務課から履修時のガイダンスや、掲示にて周知を行った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{135} = \boxed{0.74}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	和洋国府台女子中学・高等学校(必要面積18,193㎡)と共用(収容定員:680人、高等学校1,070人)			
	校舎敷地	9,938 ㎡	34,404 ㎡	4,711 ㎡	49,053 ㎡				
	運動場用地	80,548 ㎡	11,509 ㎡	5,170 ㎡	97,227 ㎡				
	小 計	90,486 ㎡	45,913 ㎡	9,881 ㎡	146,280 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡				
	合 計	90,486 ㎡	45,913 ㎡	9,881 ㎡	146,280 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	和洋国府台女子中学・高等学校(必要面積18,193㎡)と共用(収容定員:680人、高等学校1,070人)				
	50,544㎡ (50,544㎡)	2,757㎡ (2,757㎡)	1,564㎡ (1,564㎡)	54,865㎡ (54,865㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	43 室	27 室	36 室	6 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	看護学部 看護学科		32 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	看護学部就任教員で数回にわたり検討した結果、修正した(30)	
	看護学部	4601 [468] 4500 [450] (2931 [298]) (4500 [450])	46 [6] 40 [40] (0 [0]) (40 [40])	6 [6] (6 [6])	378 350 (186) (350)	6406 5877 (6406) (5877)	20 [31] 20 (31)		
	計	4601 [468] 4500 [450] (2931 [298]) (4500 [450])	46 [6] 40 [40] (0 [0]) (40 [40])	6 [6] (6 [6])	378 350 (186) (350)	6406 5877 (6406) (5877)	20 [31] 20 (31)		
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体 看護学部の設置と学生の利用を鑑み閲覧座席数を増やすとともに書架を増設した(30)					
	3,223 ㎡	400 267	321,224 273,925						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	6,005 ㎡	-							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請学部全体 図書購入費には電子ジャーナル、データベース購入費を含む研究費の算出方法変更(30)
		教員1人当り研究費等	250千円 260千円	250千円 260千円	図書購入費	24,976千円 24,506千円	16,667千円 15,955千円	41,643千円 30,255千円	
		共同研究費等	2270千円 980千円	2270千円 980千円	設備購入費	194,770千円 210,920千円	0千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書及び設備購入費については再精査の結果、修正した(30) 納付金には、セミナー研修費・諸会費の納入があった為変更した(30)	
		1,902千円 1,850千円	1,652千円 1,600千円	1,652千円 1,600千円	1,652千円 1,600千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入 他							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学 の 名 称	和洋女子大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人文学部									
国際学科	4	120	3年次 6	492	学士 (文学)	0.85	平成26年度	千葉県市川市国府台2-3-1	
					学士 (教養)				
日本文学文化学科	4	110	3年次 6	452	学士 (文学)	1.01	平成20年度	同上	
心理学科	4	70	3年次 5	290	学士 (心理学)	0.84	平成26年度	同上	
こども発達学科	4	70	3年次 5	290	学士 (教育学)	1.07	平成26年度	同上	
家政学部									
服飾造形学科	4	80	3年次 5	330	学士 (家政学)	0.79	平成20年度	同上	
健康栄養学科	4	120	3年次 5	490	学士 (家政学)	1.11	平成20年度	同上	
家政福祉学科	4	80	3年次 5	330	学士 (家政学)	1.01	平成20年度	同上	
看護学部									
看護学科	4	100	-	100	学士 (看護学)	1.14	平成30年度	千葉県市川市国府台2-1-18	
大学 の 名 称	和洋女子大学大学院								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人文科学研究科									
英語文学専攻修士課程	2	5	-	10	修士 (文学)	0.00	平成14年度	千葉県市川市国府台2-3-1	
日本文学専攻修士課程	2	5	-	10	修士 (文学)	0.10	平成14年度	同上	
総合生活研究科									
総合生活専攻博士前期課程	2	8	-	16	修士 (家政学)	0.50	平成14年度	同上	
総合生活専攻博士後期課程	3	3	-	9	博士 (学術)	0.33	平成21年度	同上	
					博士 (家政学)				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については, 必ず記入するとともに, 下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	刀根 洋子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 母性看護学概論 母性看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	篠原 百合子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 精神看護学概論 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究Ⅱ 看護の統合実践実習
専	教授	石津 みゑ子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護理論 看護学概論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	金子 みち代 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験
専	教授	白鳥 孝子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 看護倫理 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	新谷 奈苗 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 公衆衛生学 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護展開論 Ⅰ(地域) 公衆衛生看護展開論 Ⅱ(学校保健) 公衆衛生看護展開論 Ⅲ(産業保健) 公衆衛生看護展開論 Ⅳ(地域診断) 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 Ⅰ(市町村) 公衆衛生看護学実習 Ⅱ(保健所) 公衆衛生看護学実習 Ⅲ(産業・学校保健) ヘルスプロモーション 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	刀根 洋子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 母性看護学概論 母性看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	石津 みゑ子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護理論 看護学概論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	金子 みち代 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験
専	教授	白鳥 孝子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 看護倫理 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	新谷 奈苗 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 公衆衛生学 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護展開論 Ⅰ(地域) 公衆衛生看護展開論 Ⅱ(学校保健) 公衆衛生看護展開論 Ⅲ(産業保健) 公衆衛生看護展開論 Ⅳ(地域診断) 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 Ⅰ(市町村) 公衆衛生看護学実習 Ⅱ(保健所) 公衆衛生看護学実習 Ⅲ(産業・学校保健) ヘルスプロモーション 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	竹内 久美子 <平成30年4月>	専	教授	竹内 久美子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護教育学 看護マネジメント 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護教育学 看護マネジメント 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	中垣 紀子 <平成30年4月>	専	教授	中垣 紀子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	中澤 明美 <平成30年4月>	専	教授	中澤 明美 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ(施設) 老年看護学実習Ⅱ(病院) 老年看護学実習Ⅲ(包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護の知識 看護学セミナー 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ(施設) 老年看護学実習Ⅱ(病院) 老年看護学実習Ⅲ(包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	原田 光子 <平成30年4月>	専	教授	原田 光子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 看護治療技術演習 在宅看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 看護治療技術演習 在宅看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	宮内 清子 <平成30年4月>	専	教授	宮内 清子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	教授	渡邊 知子 <平成30年4月>	専	教授	渡邊 知子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	新井 敏子 <平成30年4月>	専	准教授	新井 敏子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習			基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	上松 恵子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	大谷 則子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅰ(生活の援助技術) 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	小笠原 祐子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅰ(生活の援助技術) 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	釜屋 洋子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ(施設) 老年看護学実習Ⅱ(病院) 老年看護学実習Ⅲ(包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	河村 秋 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護展開論Ⅰ(地域) 公衆衛生看護展開論Ⅱ(学校保健) 公衆衛生看護展開論Ⅲ(産業保健) 公衆衛生看護展開論Ⅳ(地域診断) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業・学校保健) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	上松 恵子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	大谷 則子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅰ(生活の援助技術) 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	小笠原 祐子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅰ(生活の援助技術) 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	釜屋 洋子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ(施設) 老年看護学実習Ⅱ(病院) 老年看護学実習Ⅲ(包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	河村 秋 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護展開論Ⅰ(地域) 公衆衛生看護展開論Ⅱ(学校保健) 公衆衛生看護展開論Ⅲ(産業保健) 公衆衛生看護展開論Ⅳ(地域診断) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業・学校保健) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	立川 茂樹 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護展開論Ⅰ(地域) 公衆衛生看護展開論Ⅱ(学校保健) 公衆衛生看護展開論Ⅲ(産業保健) 公衆衛生看護展開論Ⅳ(地域診断) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業・学校保健) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	寺岡 征太郎 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 精神看護学概論 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	土井 一浩 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅲ(臨床看護技術) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	藤井 美穂子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	小野坂 益成 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	恩田 清美 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護マネジメント 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	寺岡 征太郎 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 精神看護学概論 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	土井 一浩 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) 看護基本技術Ⅲ(臨床看護技術) 看護基本技術Ⅳ(看護の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	准教授	藤井 美穂子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	恩田 清美 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護マネジメント 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	嶋野 ひさ子 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	鈴木 裕子 <平成33年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
兼任	講師	鈴木 裕子 <平成31年4月>
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ
専	講師	段ノ上 秀雄 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	永岡 裕康 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 公衆衛生学 保健医療情報学 公衆衛生看護展開論Ⅳ(地域診断)
専	講師	丸上 輝剛 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	井上 智栄子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 在宅看護学実習 看護の統合実践実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	嶋野 ひさ子 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	鈴木 裕子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ 在宅看護学実習 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	鈴木 裕子 <平成30年4月>
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅看護援助論Ⅱ
専	講師	段ノ上 秀雄 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	講師	永岡 裕康 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 公衆衛生学 保健医療情報学 公衆衛生看護展開論Ⅳ(地域診断)
専	講師	丸上 輝剛 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	井上 智栄子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援センター) 在宅看護学実習 看護の統合実践実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小川 明佳 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅳ(看護 の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	鶴淵 礼子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 母性看護学実習 看護の統合実践実習
専	助教	日野 徳子 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	山下 菜穂子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援セン ター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	山下 尚美 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
兼任	教授	豊谷 要 <平成30年4月>
		化学 色彩の科学 数理と発想
兼任	教授	金丸 裕志 <平成30年4月>
		20世紀の日本

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小川 明佳 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 看護基本技術Ⅳ(看護 の計画と展開) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	鶴淵 礼子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 母性看護学実習 看護の統合実践実習
専	助教	日野 徳子 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	山下 菜穂子 <平成30年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 老年看護学実習Ⅲ (包括支援セン ター) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
専	助教	山下 尚美 <平成31年4月>
		基礎ゼミ 看護学セミナー 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 老年看護学実習Ⅰ (施設) 老年看護学実習Ⅱ (病院) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護の統合実践実習
兼任	教授	豊谷 要 <平成30年4月>
		化学 色彩の科学 数理と発想
兼任	教授	金丸 裕志 <平成30年4月>
		20世紀の日本

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	金子 健彦 <平成30年4月>
		女性と美容 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 病理学総論 公衆衛生学 チーム医療
兼任	教授	河内山 有佐 <平成30年4月>
		海外語学研修 英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼任	教授	小林 勉 <平成30年4月>
		住まいとデザイン
兼任	教授	駒見 和夫 <平成30年4月>
		キャリアデザイン 遺跡に学ぶ
兼任	教授	櫻井 洋一 <平成30年4月>
		生命と医療の倫理
兼任	教授	迫村 純男 <平成30年4月>
		英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼任	教授	佐藤 宏子 <平成30年4月>
		家族とジェンダー
兼任	教授	島田 由紀子 <平成30年4月>
		現代の教育
兼任	教授	嶋根 歌子 <平成30年4月>
		服装の科学 看護の知識

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	金子 健彦 <平成30年4月>
		女性と美容 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 病理学総論 公衆衛生学 チーム医療
兼任	教授	河内山 有佐 <平成30年4月>
		海外語学研修
兼任	講師	ドイチェマン・サ ラ・ミヨシ <平成30年4月>
		英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼任	教授	小林 勉 <平成30年4月>
		住まいとデザイン
兼任	講師	奈良 玲子 <平成30年4月>
		キャリアデザイン
兼任	教授	鈴木 葉子 <平成30年4月>
		生命と医療の倫理
兼任	教授	迫村 純男 <平成30年4月>
		英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼任	講師	大森 美佐 <平成30年4月>
		家族とジェンダー
兼任	助教	中村 光絵 <平成30年4月>
		現代の教育
兼任	教授	嶋根 歌子 <平成30年4月>
		服装の科学 看護の知識

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	庄司 妃佐 ＜平成30年4月＞ 加齢と高齢者の科学
兼担	教授	高久田 佳津子 ＜平成30年4月＞ 海外語学研修
兼担	教授	中村 威久水 ＜平成30年4月＞ 日本の美術 西洋の美術
兼担	教授	菱田 隆昭 ＜平成30年4月＞ 現代の教育
兼担	教授	日向 清人 ＜平成30年4月＞ 英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼担	教授	古畑 公 ＜平成30年4月＞ 健康と食生活
兼担	教授	湊 久美子 ＜平成30年4月＞ 社会貢献と実践 健康の科学 フィットネス実習
兼担	教授	山下 景秋 ＜平成30年4月＞ 経済の仕組み
兼担	教授	李明伍 ＜平成30年4月＞ 家族と社会 社会の仕組み
兼担	准教授	池田 幸恭 ＜平成30年4月＞ 心理の科学
兼担	准教授	大神 優子 ＜平成30年4月＞ 人間の発達
兼担	准教授	岡本 秀明 ＜平成30年4月＞ 家族と福祉
兼担	准教授	小沢 哲史 ＜平成30年4月＞ 人間の発達
兼担	准教授	黒田 誠 ＜平成30年4月＞ こんにちの文化
兼担	准教授	駒 久美子 ＜平成30年4月＞ 現代の教育
兼担	准教授	佐藤 淳一 ＜平成30年4月＞ 表現と創作

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	庄司 妃佐 ＜平成30年4月＞ 加齢と高齢者の科学
兼担	教授	高久田 佳津子 ＜平成30年4月＞ 海外語学研修
兼担	教授	中村 威久水 ＜平成30年4月＞ 日本の美術 西洋の美術
兼担	教授	菱田 隆昭 ＜平成30年4月＞ 現代の教育
兼担	教授	日向 清人 ＜平成30年4月＞ 英語a-I 英語a-II 英語b-I 英語b-II
兼担	教授	古畑 公 ＜平成30年4月＞ 健康と食生活
兼担	教授	湊 久美子 ＜平成30年4月＞ 社会貢献と実践 健康の科学 スポーツ実習 フィットネス実習
兼任	講師	宇佐美 かおる ＜平成30年4月＞ フィットネス実習
兼担	教授	山下 景秋 ＜平成30年4月＞ 経済の仕組み
兼担	教授	李明伍 ＜平成30年4月＞ 家族と社会
兼任	講師	酒井 博美 ＜平成30年4月＞ 心理の科学
兼任	准教授	金井 智恵子 ＜平成30年4月＞ 人間の発達
兼担	准教授	岡本 秀明 ＜平成30年4月＞ 家族と福祉
兼担	准教授	小沢 哲史 ＜平成30年4月＞ 人間の発達
兼担	准教授	黒田 誠 ＜平成30年4月＞ こんにちの文化
兼担	准教授	駒 久美子 ＜平成30年4月＞ 現代の教育
兼担	准教授	佐藤 淳一 ＜平成30年4月＞ 表現と創作

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐藤 まゆみ ＜平成30年4月＞ 社会福祉の展望 社会貢献と実践
		秦泉寺 友紀 ＜平成30年4月＞ 社会の仕組み
兼任	准教授	杉浦 功一 ＜平成30年4月＞ 国際関係入門
		杉浦 令子 ＜平成32年4月＞ チーム医療
兼任	准教授	多賀 昌樹 ＜平成30年4月＞ 健康と食生活
		高木 憲司 ＜平成32年4月＞ 社会保障論
兼任	准教授	寺島 瞳 ＜平成30年4月＞ 心理の科学
		延澤 直樹 ＜平成30年4月＞ ファッションの文化
兼任	准教授	藤丸 麻紀 ＜平成30年4月＞ 経済の仕組み
		山本 高美 ＜平成30年4月＞ パソコンの基礎と応用 服装の科学
兼任	講師	Jennifer R Morgan ＜平成30年4月＞ 海外語学研修
		伊瀬 玲奈 ＜平成30年4月＞ こどもと育児
兼任	助教	梅山 聡 ＜平成30年4月＞ 日本の文学
		織田 奈緒子 ＜平成30年4月＞ ファッションの文化
兼任	助教	上村 明 ＜平成30年4月＞ 健康の科学 スポーツ実習
		木村 尚志 ＜平成30年4月＞ 日本の文学 表現と創作 海外文化研修

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐藤 まゆみ ＜平成30年4月＞ 社会福祉の展望 社会貢献と実践
		秦泉寺 友紀 ＜平成30年4月＞ 社会の仕組み
兼任	准教授	杉浦 功一 ＜平成30年4月＞ 国際関係入門
		杉浦 令子 ＜平成32年4月＞ チーム医療
兼任	准教授	多賀 昌樹 ＜平成30年4月＞ 健康と食生活
		高木 憲司 ＜平成32年4月＞ 社会保障論
兼任	准教授	寺島 瞳 ＜平成30年4月＞ 心理の科学
		延澤 直樹 ＜平成30年4月＞ ファッションの文化
兼任	准教授	藤丸 麻紀 ＜平成30年4月＞ 経済の仕組み
		山本 高美 ＜平成30年4月＞ パソコンの基礎と応用 服装の科学
兼任	講師	Jennifer R Morgan ＜平成30年4月＞ 海外語学研修
兼任	助教	梅山 聡 ＜平成30年4月＞ 日本の文学
		織田 奈緒子 ＜平成30年4月＞ ファッションの文化
兼任	助教	上村 明 ＜平成30年4月＞ 健康の科学 スポーツ実習
		木村 尚志 ＜平成30年4月＞ 日本の文学 表現と創作

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	永澤 貴昭 <平成30年4月> 健康の科学
兼任	助教	星野 文子 <平成30年4月> 外国の文学 ジェンダーと文学
兼任	講師	青柳 信嘉 <平成31年4月> 病態と治療Ⅱ(外科系)
兼任	講師	浅川 孝司 <平成32年4月> 看護治療技術演習
兼任	講師	阿部 正二 <平成30年4月> 看護の知識
兼任	講師	石川 圭一 <平成30年4月> 手書き文字の世界 漢字・かな文字の変遷
兼任	講師	市野 由香 <平成32年4月> チーム医療 看護治療技術演習
兼任	講師	植田 幹男 <平成30年4月> 生化学
兼任	講師	遠藤 英子 <平成31年4月> 感染看護学
兼任	講師	大石 時子 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	小田 清一 <平成32年4月> 看護と関係法規 保健医療福祉行政論
兼任	講師	鹿倉 壮史 <平成30年4月> 手書き文字の世界
兼任	講師	加藤 将貴 <平成30年4月> パソコンの基礎と応用

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	金 範洙 <平成30年4月> 海外文化研修
兼任	助教	永澤 貴昭 <平成30年4月> 健康の科学
兼任	助教	星野 文子 <平成30年4月> 外国の文学 ジェンダーと文学
兼任	講師	青柳 信嘉 <平成31年4月> 病態と治療Ⅱ(外科系)
兼任	講師	浅川 孝司 <平成32年4月> 看護治療技術演習
兼任	講師	阿部 正二 <平成30年4月> 看護の知識
兼任	講師	川嶋 充 <平成30年4月> 手書き文字の世界
兼任	講師	綿引 浩一 <平成30年4月> 漢字・かな文字の変遷
兼任	講師	市野 由香 <平成32年4月> チーム医療 看護治療技術演習
兼任	講師	植田 幹男 <平成30年4月> 生化学
兼任	講師	遠藤 英子 <平成31年4月> 感染看護学
兼任	講師	大石 時子 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	小田 清一 <平成32年4月> 看護と関係法規 保健医療福祉行政論
兼任	講師	川嶋 充 <平成30年4月> 手書き文字の世界
兼任	講師	加藤 将貴 <平成30年4月> パソコンの基礎と応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 公子 <平成31年4月> 栄養学
兼任	講師	日下部 貴 <平成31年4月> 公衆衛生学 災害と地域看護活動
兼任	講師	河野 啓子 <平成31年4月> 産業看護学
兼任	講師	香山(古金谷) 綾子 <平成30年4月> 生命の科学
兼任	講師	小松 稚菜 <平成30年4月> 礼法
兼任	講師	小室 敬幸 <平成30年4月> 音楽の歴史 音楽の楽しみ
兼任	講師	近藤(佐藤) 麻理 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	近藤 陽子 <平成31年4月> 感染看護学
兼任	講師	佐藤 禮子 <平成30年4月> 公衆衛生看護展開論 I(地域) ヘルスプロモーション がん看護学
兼任	講師	杉山 篤 <平成31年4月> 薬理学
兼任	講師	高松 潔 <平成31年4月> 病態と治療Ⅲ(産婦人科・小児疾患)
兼任	講師	田中 はる美 <平成30年4月> 礼法
兼任	講師	戸田 里和 <平成30年4月> キャリアデザイン
兼任	講師	苦米地 則子 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	豊川 智之 <平成32年4月> 疫学 保健統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 公子 <平成31年4月> 栄養学
兼任	講師	日下部 貴 <平成31年4月> 公衆衛生学 災害と地域看護活動
兼任	講師	河野 啓子 <平成31年4月> 産業看護学
兼任	講師	香山(古金谷) 綾子 <平成30年4月> 生命の科学
兼任	講師	及川 有紀子 <平成30年4月> 礼法
兼任	講師	小室 敬幸 <平成30年4月> 音楽の歴史 音楽の楽しみ
兼任	講師	近藤(佐藤) 麻理 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	近藤 陽子 <平成31年4月> 感染看護学
兼任	講師	佐藤 禮子 <平成30年4月> 公衆衛生看護展開論 I(地域) ヘルスプロモーション がん看護学
兼任	講師	杉山 篤 <平成31年4月> 薬理学
兼任	講師	高松 潔 <平成31年4月> 病態と治療Ⅲ(産婦人科・小児疾患)
兼任	講師	田中 はる美 <平成30年4月> 礼法
兼任	講師	戸田 里和 <平成30年4月> キャリアデザイン
兼任	講師	苦米地 則子 <平成33年4月> 国際理解と看護
兼任	講師	豊川 智之 <平成32年4月> 疫学 保健統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	早川(長嶋) 理穂 <平成30年4月>			
		歴史学			
			兼任	講師	加藤 はるか <平成30年4月>
					歴史学
兼任	講師	難波 秀行 <平成30年4月>	兼任	講師	難波 秀行 <平成30年4月>
		スポーツ実習			スポーツ実習
兼任	講師	西塚 俊太 <平成30年4月>	兼任	講師	西塚 俊太 <平成30年4月>
		哲学への誘い			哲学への誘い
兼任	講師	野村 和孝 <平成31年4月>	兼任	講師	野村 和孝 <平成31年4月>
		アサーティブコミュニケーション			アサーティブコミュニケーション
兼任	講師	服部 裕美子 <平成30年4月>	兼任	講師	服部 裕美子 <平成30年4月>
		ホスピタリティ			ホスピタリティ
兼任	講師	早川 達郎 <平成31年4月>	兼任	講師	早川 達郎 <平成31年4月>
		病態と治療Ⅳ(精神・神経疾患)			病態と治療Ⅳ(精神・神経疾患)
兼任	講師	日野 勝吾 <平成30年4月>	兼任	講師	日野 勝吾 <平成30年4月>
		日本国憲法 憲法と人権			日本国憲法 憲法と人権
兼任	講師	柳内 秀勝 <平成30年4月>	兼任	講師	柳内 秀勝 <平成30年4月>
		病態と治療Ⅰ(内科系)			病態と治療Ⅰ(内科系)
兼任	講師	矢吹 智美 <平成32年4月>	兼任	講師	矢吹 智美 <平成32年4月>
		看護治療技術演習			看護治療技術演習
兼任	講師	山崎 みつ江 <平成33年4月>	兼任	講師	山崎 みつ江 <平成33年4月>
		災害と地域看護活動			災害と地域看護活動
兼任	講師	山本 直史 <平成32年4月>	兼任	講師	山本 直史 <平成32年4月>
		看護治療技術演習			看護治療技術演習
兼任	講師	四ツ屋 真由美 <平成32年4月>	兼任	講師	四ツ屋 真由美 <平成32年4月>
		看護治療技術演習			看護治療技術演習
兼任	講師	綿引 浩一 <平成30年4月>	兼任	講師	綿引 浩一 <平成30年4月>
		漢字・かな文字の変遷			漢字・かな文字の変遷

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・篠原 百合子教授 就任辞退。後任未定であるが、平成31年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・立川 茂樹准教授 就任辞退。後任未定であるが、平成31年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・小野坂 益成講師 就任辞退。後任未定であるが、平成31年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・河内山有佐兼担教授の担当科目調整のため、「英語a-I」「英語a-II」「英語b-I」「英語b-II」をドイチェマン・サラ・ミヨシ兼任講師に変更。
- ・駒見和夫兼担教授就任辞退により、「キャリアデザイン」を奈良玲子兼任講師に変更、「遺跡に学ぶ」を平成30年度は休講。
- ・櫻井洋一兼担教授就任辞退により、鈴木葉子兼担教授に変更。
- ・佐藤宏子兼担教授の役職者コマ数減のため、大森美佐兼任講師に変更。
- ・島田由紀子兼担教授就任辞退により、中村光絵兼担教授に変更。
- ・湊久美子兼担教授の担当科目調整のため、「スポーツ実習」を追加し、「フィットネス実習」を1クラス宇佐美かおる兼任講師に変更
- ・李明伍兼担教授の役職者コマ数減のため、「社会の仕組み」を平成30年度は休講。
- ・池田幸恭兼担教授の役職者コマ数減のため、酒井博美兼任講師に変更。
- ・大神優子兼担教授の役職者コマ数減のため、金井智恵子兼担教授に変更。
- ・伊瀬玲奈兼担助教の担当科目調整のため、原子はるみ兼担教授に変更。
- ・木村尚志兼担助教の育児休業取得のため、「海外文化研修」を平成30年度休講。別途クラス増加につき同科目を金範洙兼任講師が担当。
- ・石川圭一兼任講師の就任1年延期のため、「手書き文字の世界」を川嶋充兼任講師に変更、「漢字・かな文字の変遷」を平成30年度休講。
- ・鹿倉壮史兼任講師の就任1年延期のため、「手書き文字の世界」を川嶋充兼任講師に変更。
- ・小松稚菜兼任講師就任辞退により、及川有紀子兼任講師に変更。
- ・早川理穂兼任講師就任辞退により、加藤はるか兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
12	10	7	6	35	11	9	5	4	29	11	9	6	6	32
(11)	(9)	(5)	(4)	(29)						[Δ1]	[Δ1]	[Δ1]	[]	[Δ3]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、
 完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	4	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、
 および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている
 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入
 し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{32}{35} = \boxed{91.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{4}{29} = \boxed{13.79} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	篠原 百合子	必修	基礎ゼミ	①	一身上の都合のため就任辞退（30）	
			必修	看護学セミナー	①		
			必修	精神看護学概論	①		
			必修	精神看護援助論Ⅰ	①		
			必修	精神看護援助論Ⅱ	①		
			必修	精神看護学実習	①		
			必修	看護研究Ⅱ	①		
2	准教授	立川 茂樹	必修	基礎ゼミ	①	一身上の都合のため就任辞退（30）	
			必修	看護学セミナー	①		
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①		
			選択	公衆衛生看護展開論Ⅰ（地域）	①		
			選択	公衆衛生看護展開論Ⅱ（学校保健）	①		
			必修	公衆衛生看護展開論Ⅲ（産業保健）	①		
			選択	公衆衛生看護展開論Ⅳ（地域診断）	①		
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	①		
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	①		
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）	①		
			必修	看護研究Ⅱ	①		
			必修	看護研究Ⅲ	①		
			必修	看護の統合実践実習	①		
3	講師	小野坂 益成	必修	基礎ゼミ	①	一身上の都合のため就任辞退（30）	
			必修	看護学セミナー	①		
			必修	精神看護援助論Ⅰ	①		
			必修	精神看護援助論Ⅱ	①		
			必修	精神看護学実習	①		
			必修	看護研究Ⅱ	①		
			必修	看護研究Ⅲ	①		
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
3	人	必修	23 科目	必修	0 科目	必修	23 科目
		選択	6 科目	選択	0 科目	選択	6 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	29 科目	計	0 科目	計	29 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

「該当なし」

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)				後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3	人	必修	23 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	23 科目
		選択	6 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	6 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	29 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	29 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{3}{35} = \boxed{8.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

「該当なし」

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員数が3人減じたことについては、現在平成31年4月から3人の専任教員採用予定で公募中である。公募中につき後任未定となっている3人の専任教員が担当していた授業科目については、教員資格審査等の所要の経路を経た他の専任教員で対応するとともに、開講学年に達していない科目もあり支障ない。専任教員の辞任に際しては、本学部の領域会議を実質的な単位として、教育上の引継ぎや学生へのフォローを行っている。学生に対しては、教員一覧をホームページ上に掲載するとともに、ガイダンス時に教員紹介を行い、周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成30年5月)	1. 保健師課程を希望する学生に対して、履修指導において保健師に係る人材需要や地域の実情等をしっかりと説明すること。 留意事項	履修ガイダンスにおいて、1年生全員に対し、保健師に係る人材需要や千葉県地域の実情をしっかりと説明した。(30)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
「特になし」	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、平成27年4月から平成30年3月まで、全体協議会で、FDの計画と実施及び自己点検を担当していた。しかし、より機能を強化するために、平成30年度からは、全体協議会を廃して「大学評議会」を新設し、FDの計画と実施及び自己点検も引き続き担当することにした。 ※別添「和洋女子大学大学評議会規程」

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

大学協議会は、学長が議長となり、月2回開催することになっている。構成員は、学長・副学長・学部長等・部門長等・事務局長である。なお、会議で決議された事項を速やかに実施するために、事務局次長(5名)が陪席している。4月10日、4月24日の2回開催され、全員が出席している。

c 委員会の審議事項等

審議事項は、大学の運営に関わる事項についてである。特に次の事項については、担当制とし、責任をもって行うこととしている。①大学認証評価、②目標と計画(2年計画)、③授業評価アンケート、④学生生活アンケート、⑤FD企画立案、⑥教員実践点検シート、⑦教学マネジメント評価委員会

② 実施状況

全学FDの開催状況

第1回目は、4月2日に実施した。内容は、新任教員に対する本学の教育理念ほかについてである。学長が講師を務めた。46名中、欠席者1名を除き45名が出席した。（出席率97.8%）

第2回目は、7月3日に、アクティブラーニングについて実施する予定となっている。

看護学部FD

看護学部のFDは、下記の内容について、今年度中に実施する予定である。

①和洋女子大学の教育方針と看護学部のDP・CP・APIについて理解を深める。②初めて大学教員になる人のための教育力と研究力を養うための年間計画の立て方、③学生理解と教育方法について、④個人情報管理とハラスメント防止対策についての理解

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期に各1回実施している。

b 教員や学生への公開状況, 方法等

結果を各授業担当者に公開するとともに、評価結果を分析・各教員の所感等をまとめた報告書を作成し、学内ネットワークを通じて教職員に対して開示している。また、所感を除いた報告書は大学ホームページで公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>和洋女子大学看護学部教育理念は、本学の教育目標である「人を支える『心』と『技』を持って行動する女性」を基本とし、自立的に行動でき、生命の尊厳を守り、時代の価値観が大きく転換する21世紀において活躍する実践力と倫理観を備えた看護師を育成することにある。</p> <p>看護学部(学科)は、本年4月に開設し、第1期生として114名の学生を迎え入れた。</p> <p>教育と研究の成果に対する具体的な評価は、現時点で行うことはできないが、看護学セミナー(4月23日～25日の2泊3日)、本学佐倉セミナーハウスで行う集中講座。学生114名全員と科目担当責任者及び担任アドバイザーが引率)にて、改めて教育目標や養成する人材像を説明し、今後4年間の学修に対する動機づけを行って、学生生活をスタートさせている。</p> <p>今後も設置計画を着実に履行していくため、不断の努力を続け、学生確保と優れた教育・研究を進めていく。</p> <p>平成30年度の学生募集活動においては、オープンキャンパス(8回)、進学相談会(15回)、高校訪問(89校)を展開し、志願者335名、入学者114名の結果となった。これは、「学生確保の見通し」として実施したアンケート調査の想定を大きく上回るものであり、本学部開設が進学先として一定の評価を得たといえる。</p>
<p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <p>平成27年4月 公表</p> <p>b 公表方法</p> <p>点検・評価報告書を刊行し、大学ホームページ上に公開</p>
<p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>平成26年度に評価機関(公益財団法人大学基準協会)による評価の結果、適合と認定された。</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表(予定)の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 (平成30年 9月 下旬)</p>
--

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

○和洋女子大学大学評議会規程

（設置）

第1条 和洋女子大学学則第8条の規定に基づき、本学に大学評議会（以下「本会」という。）を置く。

（目的）

第2条 本会は、大学の充実と運営の効率化を図るため、大学運営等に関する重要な以下の事項について、審議を行うとともに、必要な連絡調整を行うことを目的とする。

（1）大学の将来構想及び中期計画・目標の企画立案に関する事項

（2）教員人事に関する事項（採用に伴う手続きは別に定める）

（3）自己点検及び評価の企画・実施に関する事項

（4）FD（ファカルティ・ディベロップメント）に関する事項

（5）学長が必要と認めた事項

2 本会は、審議した事項について、必要に応じて教授会に報告しなければならない。教授会は、特に必要がある場合には、本会が審議した事項について、改めて審議し、本会に意見を述べることができる。

（構成員）

第3条 本会は、学長、副学長、学部長、部門長、図書館長、事務局長をもって構成する。

2 本会が必要と認めたときは、前項の規定に関わらず、その他の教職員の出席を求め、意見を聴くことができる。

（会議）

第4条 本会は、原則として定期開催する。ほかに、学長が必要と認めたとき、又は構成員の2分の1以上の要求があったときは、学長がこれを招集する。

2 本会は大学院評議会と合同で開催することができる。

（議長）

第5条 本会の議長は、学長がこれに当たる。

2 学長に支障があるときは、学長があらかじめ指名する者がこれを代行する。

（成立要件）

第6条 本会は、委任状を含めて構成員（国内研修派遣者、海外研修派遣者、退職者、育児休業者及び介護休業者を除く。）の3分の2以上の出席をもって成立する。

（議決）

第7条 本会の議決ならびに教授会の審議結果を参酌し、学長は事項に関する方針を決定する。

（議事の公開）

第8条 本会の議事は、非公開とする。

（庶務）

第9条 本会の庶務については、学事課が担当する。

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、和洋学園諸規程の管理規程の定めによる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から制定施行する。

本規程の制定により、和洋女子大学大学運営会議規程（平成27年4月1日制定施行）、全体協議会規程（平成10年3月17日制定施行）及び全体協議会運営規程（平成10年3月17日制定）については、平成30年3月31日をもって廃止する。